

全国の屋台村に見るの空間的特徴に関する調査研究

A study on the Spatial Features of Yataimura nationwide

○田中孝登¹, 畔柳昭雄², 菅原遼²*Koto Tanaka¹, Akio Kuroyanagi², Ryo Sugahara²

In recent years, construction of Yataimura is done nationwide. Therefore, in this paper, we have grasped the distribution and spatial composition of Yataimura using outdoor space nationwide. As a result of the survey, it was found that many Yataimura are distributed in the northern part of Japan. In the space composition, various forms were seen for each case, but it can be roughly divided depending on the number of road in contact with the site and the layout of shops. And it turned out that it is the most common form that connects two streets like a Yokotyo, and arranges shops to be simple flow lines. In addition, with the increase site size, the number of shops increased, and we also grasped the tendency to arrange shops in a wide variety of flow lines in store arrangement form.

1. はじめに

我が国では、公共空間において占用利用や営利行為を行う場合監督官庁の許可が必要となり、河川空間では河川法、道路空間では道路法及び道路交通法に基づく許可が必要となる。一方で、福岡県福岡市や広島県呉市では、河川沿いにおいて都市特有の賑わい空間を生み出している屋台を貴重な観光資源と捉え、公共空間利用に関する柔軟な解釈を行っている。こうした中、近年では、屋台の持つ空間性や繁華性を評価することにより地域を活性化する取り組みが行われてきている。これらは屋台村や横丁等（以下、屋台村と示す。）と呼ばれ賑わいを見せるが、概ね、屋台村は、民有地の暫定的な利用法としてつくられてきている。屋台村は、2001年に北海道帯広市で誕生した「北の屋台」が発祥とされ、以降、全国的に展開されている。

そこで本稿では、全国の屋台村を対象とし、その分布及び空間的特徴を把握することを目的とする。

2. 調査概要

ここでは、インターネットによる WEB 調査を実施し、全国的な屋台村の分布及びその店舗数を把握した。その後、周辺環境及びその空間構成を把握するため、設置形態が屋外あるいは屋外を含む屋台村に絞り、各屋台村の敷地面積及び空間構成を Google Maps を用いて把握した。

3. 調査結果及び考察

3-1. 国内における屋台村の分布状況

Figure1 に屋台村の全国分布、Table1 に全国における屋台村の名称とその詳細を示す。調査の結果、全国に

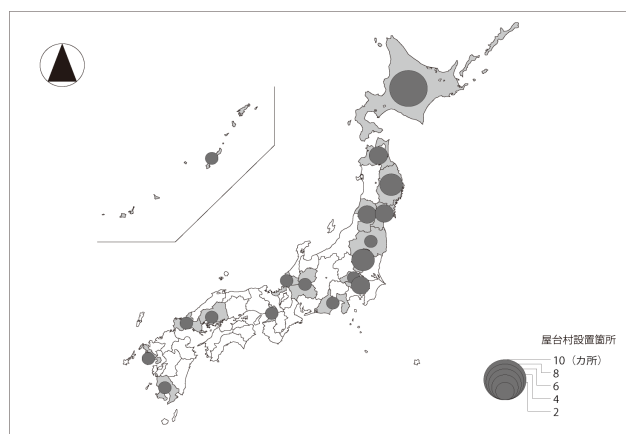


Figure1. Distribution of Yataimura

は 33 カ所の屋台村があることを見出した。また、Figure1 を見ると、主に北海道及び東北地方に分布が集中していることが分かる。特に、北海道では 8 カ所と多い。また、店舗数を見ると、北海道、青森や鹿児島、沖縄において多いことがわかる。これらの中には、市場や温泉等の施設に併設したものや、震災復興事業として展開しているものもある。

3-2. 空間構成

屋台村の空間構成及び周辺環境との関係性を捉えるため、接道本数及び店舗の配置形態による分類を行い、Figure2 に示す。加えて、接道本数が 2 本の場合においては、敷地に接する道路同士が交わらないものを (a)、交わるものを (b) と大別した。また、店舗配置形態においては、店舗の配置に伴う利用者動線が分岐しないものを A、分岐するものを B と定義した。その結果、Table2 をみると、接道本数 2 本 (a)、配置形態 A のパ

1 : 日大理工・学部・海建

2 : 日大理工・教員・海建

Table1. Case of Yataimura in Japan

都道府県	市区町村	名称	店舗数 (軒)	敷地面積 (㎡)	接道本数 (本)	店舗配置形態
北海道	帯広市	いきぬき通り北の屋台	20	517	2(a)	A
	函館市	函館ひかりの屋台大門横丁	26	740	2(a)	B
	苫小牧市	屋台通り錦町横丁	11	296	1	A
	小樽市	おたる屋台村レンガ横丁	13	333	2(b)	A
	稚内市	波止場横丁	5	210	—	A
	北見市	北見じまん村	—	255	1	A
	夕張市	ゆうばり屋台村	—	230	—	A
	帯広市	十勝の長屋	20	527	2(a)	A
青森県	八戸市	八戸みろく横丁	26	932	2(a)	A
	青森市	青森屋台村さんふり横丁	15	454	2(a)	A
岩手県	大船渡市	大船渡屋台村	20	1306	2(b)	B
	釜石市	おおまちほほえむスクエア	—	362	2(a)	B
	矢巾町	矢巾屋台村さんなり横丁yahabar	12	—	2(a)	A
宮城県	気仙沼市	気仙沼横丁	21	1089	2(b)	B
	利府町	りふれ横丁	—	620	—	A
福島県	福島市	こらんしょ横丁	—	362	1	A
山形県	山形市	山形屋台村ほつとなる横丁	12	382	1	A
	酒田市	酒田柳小路屋台村北前横丁	—	247	2(b)	B
栃木県	宇都宮市	宇都宮屋台横丁	23	479	2(a)	B
	宇都宮市	東口屋台村	18	961	3	B
	小山市	小山屋台村	—	245	1	A
埼玉県	深谷市	深谷宿屋台村ふっかちゃん横丁	—	320	2(a)	A
東京都	立川市	立川屋台村パラダイス	12	440	3	B
	港区	COMMUNE2nd	15	1142	2(b)	B
静岡県	掛布市	掛布本陣通り	20	563	2(a)	A
岐阜県	高山市	高山まちなか屋台村でこなる横丁	21	610	2(b)	B
福井県	あわら市	あわら温泉屋台村湯けむり横丁	10	750	—	A
大阪府	大阪市	マルシェ横丁	10	140	1	A
広島県	広島市	西条駅前屋台村酒造横丁	—	284	2(b)	B
山口県	下関市	長州屋台村	12	489	1	A
長崎県	佐世保市	させぼの屋台村やまがたパラダイス	12	500	2(a)	A
鹿児島県	鹿児島市	かごつま屋台村	26	837	2(b)	B
沖縄県	那覇市	国際通り屋台村	20	1048	2(a)	B

ターンが 33 カ所中 8 カ所と最多となっている。これは、本来の屋台の空間的特徴である街路の通り抜けや、そこへのにじみ出しの演出を意図していることが推測される。

3-3. 敷地と空間構成の関係

Figure3 に敷地面積に対する店舗数の関係及び屋台村数を示す。まず、敷地面積と店舗数の関係を見ると正の相関 (R=6.312) となっており、敷地の規模に応じて 3 つのまとまりが見られる。これらを敷地面積と屋台村数の関係に関連づけて見てみると、比較的敷地面積が小規模なもの (I : 201~600 ㎡の範囲) の店舗数は 15 カ所存在しており、店舗配置形態は A が多く見られた。次に、中規模のもの (II : 400~1000 ㎡の範囲) の店舗数は 7 カ所存在しており、これらは店舗数を増やすことで密集して配置し店舗を密集させることで、賑わいの演出を意図している。また、大規模なもの (III : 1000 ㎡超) は 6 カ所存在し、敷地との関係性において B の配置形態を採用して界限性の演出を行なっている。

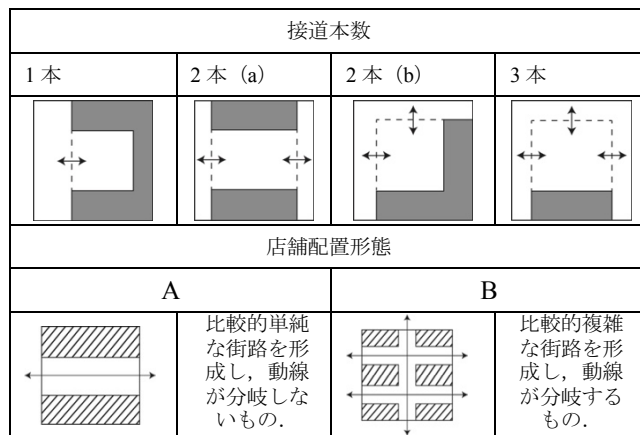


Figure2. Conceptual diagram of the number of road in contacts and the layout of shops

Table2. Classification of the number of contacts and the layout of shops

接道本数	1本		2本 (a)		2本 (b)		3本		その他	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
店舗配置形態	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
事例数	7カ所	0カ所	8カ所	4カ所	1カ所	7カ所	0カ所	2カ所	4カ所	0カ所
合計	7カ所		12カ所		8カ所		2カ所		4カ所	

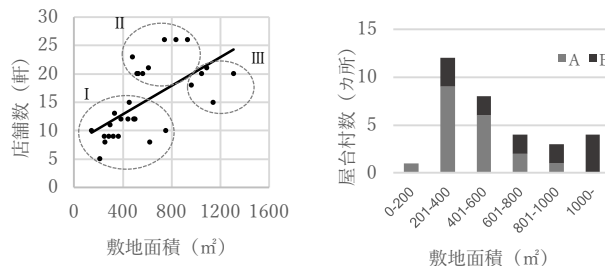


Figure3. Relationship between site and space composition

4. おわりに

本稿では、屋台村の全国的分布及び空間的特徴を捉えた。その結果、屋外空間を利用した屋台村は 33 カ所確認でき、特に本島北部に多く分布しており、北海道では 8 カ所と全国最多となっていた。次に、空間構成は、主に接道本数と店舗配置形態によって大別することができ、接道本数が 2 本 (a) で、A の配置形態のものが多く採用されていることが分かった。さらに、敷地と空間構成の関係では、敷地面積の増加に伴い店舗数も増加し、B の配置形態を採用する傾向にあることが分かった。

参考文献

[1]篠原修, 北原理雄, 加藤源 他:「公共空間の活用と賑わいまちづくり オープンカフェ/朝市/屋台/イベント」, 株式会社学芸出版社, 2007.5.30